

ローカル線で行く！ フーテン旅行記 17

－「西郷どん」の故郷 鹿児島県の2つの半島を巡る！－

岡山大学工学部機械工学コース助教

大西 孝



専門は機械加工（研削）。主に円筒研削や内面研削を対象として、工作物の熱変形や弾性変形に伴う精度の悪化を防止する研究を進めている。趣味は列車を使用した旅行（47都道府県を踏破済）。

はじめに

今年の大河ドラマは「西郷どん（せごどん）」。毎回の放送を楽しみにされている方も多いと思います。今回は、大河ドラマにあやかって、西郷隆盛の故郷、薩摩の国を2回に分けてご紹介したいと思います。鹿児島県には、鹿児島湾を挟んで大隅半島と薩摩半島の二つの半島があり、それぞれに特色あるローカル線が走っています。今回は鹿児島県と宮崎県を走るローカル線の旅をご紹介します。

1. 薩摩半島で歴史を感じる！ 指宿枕崎線

まずは西側の薩摩半島を巡ってみましょう。薩摩半島は東側から南側の海沿いに指宿枕崎線（いぶすきまくらぎせん）が走っています。しかし、終点の枕崎で行き止まりの路線ですから、行きと帰りに同じ路線に乗るのも面白くありません。そこでまずは鹿児島中央駅から知覧（ちらん）行きの路線バスに



知覧武家屋敷の街並み。低い石垣の上に生垣が続き、沖縄のような光景が広がります。

乗ってみることにします。知覧は薩摩半島の南部にある町で、南九州市の市役所が置かれています。ここには複数の武家屋が数残されており、7つの庭園が公開されています。「薩摩の小京都」とも呼ばれ、「西郷どん」のロケにも使われたそうです。武家屋敷が並ぶ道の左右には低い石垣と生垣が並び、



知覧武家屋敷で公開されている7カ所の庭園のうちの一つ。赤い鮮やかな花が咲いている辺りに南国らしさを感じます。

沖縄に来たかのような錯覚に襲われます。これは知覧の港が琉球と交易をしていたため、沖縄の影響を受けているためだと「知覧武家屋敷庭園」のホームページで説明されています。国の名勝に指定された庭園は奇岩が並んだ独特の光景を楽しむことができるほか、

保存されている建物も、1700年代中期の武家屋敷の特徴が残っている貴重なものです。

知覧と言えば、もう一つ忘れてはならない場所があります。知覧は太平洋戦争末期に特攻隊の出撃基地の一つとなり、400名余りの特攻隊員がこの地から帰らぬ攻撃に出ました。「知覧特攻平和会館」では当時の戦闘



知覧特攻平和会館。平和な時代だからこそ訪れておきたい場所です。



知覧町を流れる麓川を望む。かつて特攻の出撃基地があったとは思えないような穏やかな光景が広がります。

終点である枕崎へバスで向かいます。知覧から枕崎へ直接向かうバスは運行本数が少ないので、まず加世田（かせだ）行きのバスに乗り、そこで枕崎行きに乗り換えます。加世田のバスターミナルは、かつて薩摩半島の西岸に沿って枕崎まで走っていたローカル私鉄の駅の跡で、当時の車両がバス乗り場の横に保存されています。ここで枕崎行きのバスに乗り換

機や隊員の遺書、遺品などが多く展示されており、大戦から70余年を経た今も、平和の尊さを訴えかけてきます。太平洋戦争中に若い特攻隊員がどのような気持ちで出撃したのだろうと思いを巡らせると、平和な日常がいかにありがたいものであるかが身に染みます。

知覧からいよいよ指宿枕崎線の



加世田のバスターミナルに保存されている鹿児島交通枕崎線の鉄道車両。かつては薩摩半島の西岸にもローカル私鉄が走っていました。

えます。

枕崎駅は、短いホームに線路が1本だけの駅舎もない行き止まりの駅です。ここから鹿児島中央まで2時間半余りのローカル線の旅が続きます。枕崎を出てしばらくすると、左手には薩摩富士とよばれる開聞岳（かいもんだけ）が見え、JR最南端の駅として鉄道ファンに名高い西大山駅に到着します。最南端の駅と



指宿枕崎線の終点である枕崎駅。かつては私鉄の鹿児島交通と接続していましたが、今ではホームが1本しかない終着駅です。



指宿枕崎線の車内から眺める開聞岳。薩摩富士にふさわしい、おむすび形の山です。

言っても、短いホームに記念碑が建っているだけの駅ですが、この簡素さがローカル線らしく印象に残ります。砂蒸し温泉で有名な指宿を出ると右手には海が広がり、いつまでも乗っていたい南国のローカル線の旅も、鹿児島市内に入り終点に到着します。

（岡山大学職員組合 組合だより 218号より加筆のうえ再掲）



JR最南端の駅、西大山。草生した線路に短いホームが一本だけというローカル色あふれる駅です。

2. 宮崎県から大隅半島を巡る！ 日豊本線 / 日南線

今度は鹿児島湾を挟んで東側に突き出した大隅半島を回ってみましょう。大隅半島には国鉄時代、西から順に大隅線、志布志（しぶし）線、日南（にちなん）線の3つの路線が日豊本線から志布志駅に向けて伸びていました。しかし国鉄が民营化される直前に、大隅半島の西岸を走っていた大隅線と、半島の中央を縦断し



小倉から続く日豊本線の終点となる鹿児島駅。右奥の駅舎は小さいですが、駅前には鹿児島市電が発着し、独特の旅情を誘う駅です。



鹿児島駅のホームへ入る都城行きの日豊本線の普通電車。日中は2両編成のワンマン列車が運行されています。

井駅は鹿児島県にあり、大隅半島に残る唯一の鉄道路線です。今回は鹿児島駅から日豊本線に乗り宮崎駅へ向かい、そこから日南線で志布志駅へ行き、さらに路線バスへ乗り換えた後、大隅半島の西岸にある垂水（たるみず）港から鹿児島湾をフェリーで横切って鹿児島市へ戻ります。

ていた志布志線は廃止され、唯一、大隅半島の東岸を走る日南線のみが残っています。日南線の起点は鹿児島から遠く離れた南宮崎駅で、路線の大半も宮崎県にありますが、終点の志布志駅とその一つ手前の大隅夏



日豊本線の車内から望む鹿児島湾（錦江湾）と桜島。何度通っても見飽きることのない、国内屈指の絶景の一つです。

日豊本線は小倉駅から大分県、宮崎県を経て鹿児島駅までを結ぶ長大路線です。日豊本線の終点は鹿児島駅ですが、日豊本線の列車は鹿児島本線へ直通して、次の鹿児島中央駅に発着します。鹿児島駅は小さな駅ながら、多くの人が行きかう鹿児島中央駅の賑わいとは異なる旅情があります。鹿児島駅を出ると、車窓の右側には鹿児島湾と桜島が広がります。かつて大隅線が志布志へ向けて分かれていた国分（こくぶ）駅を出ると、霧島山地の山越えにかかり、うっそうとした森林の間を



日南線から海を望む。油津駅の辺りでは奇岩が海の上に見えます。



日豊本線の西都城駅のかしわめし。そばろではなく甘辛く煮た鶏肉が載っており、北九州のかしわめしとは違う味が楽しめます。

走り宮崎県へ入ります。山を下りた西都城（にしみやこのじょう）駅は、かつての志布志線の分岐駅です。ここで宮崎方面の列車と乗り換えるために途中下車しますが、名物「かしわめし」を駅弁屋さんで買ってみましょう。そばろがご飯に載った九州北部のものとは異なり、西都城のかしわめしは甘辛く

煮た鶏肉がご飯の上に乗っていて、忘れがたい味です。ここからさらに1時間ほど普通列車に揺られ、宮崎へ着きます。

志布志方面へ向かう列車は宮崎を出ると大淀川を渡り、南宮崎から日南線へ入ります。途中の青島駅の付近では日南海岸の変化に富んだ海岸線が見られるほか、油津駅を出ると遠くに奇岩が並ぶ様が見えるなど、南国の海岸線に沿って楽しい



日南線の終点、志布志駅に到着。かつては大隅半島を走る3路線のジャンクションでしたが、今やホームが1本だけの侘しい駅です。

列車の旅が続きます。宮崎から3時間足らずで終点の志布志駅に到着しますが、この駅はかつて3本の路線が発着したとは思えない、ホームが1本だけ

の侘しい駅です。

志布志から路線バスに乗り継いで、大隅半島の中心の鹿屋（かのや）市を経て、大隅半島西岸の垂水港へ向かいます。この路線バスはかつての大隅線をたどる経路を走っており、鉄道時代に思いをはせながら、夕暮れ迫る大隅半島を縦断します。

垂水港では、鹿児島行のフェリー



垂水港からはフェリーで鹿児島湾を横断し、鹿児島市内へ戻ります。暮れなずむ港へフェリーが入ってきました。旅情を感じる光景です。



鹿児島湾を横切るフェリーの甲板から眺めた桜島。夕日にうっすらと桜島から立つ噴煙が見えます。

を待ちます。夕日の中、鹿児島からのフェリーが姿を現しました。フェリーの上からは噴煙を上げる桜島が夕日の中にシルエットとなって映えます。今回は一度宮崎まで行き大隅半島をめぐりましたが、鉄道、バス、フェリーと変化に富んだ楽しいミニトリップでした。(岡山大学職員組合 組合だより 219号より加筆のうえ掲載)

おわりに

大河ドラマに限らず、ドラマや映画の撮影が行われた地域は高い関心を集めることがあります。その土地をローカル線を訪れ、地元の風物に触れながらドラマを取り巻く世界に思いを馳せるのも良いかもしれません。岡山大学職員組合の旅行記では、過去に朝の連続テレビ小説「あまちゃん」で取り上げられた三陸鉄道 (Vol.39 No.4) や、映画の「男はつらいよ」でお馴染みの柴又駅 (Vol.39 No.2) をご紹介したことがあります。ドラマや映画を通じて地元を走る鉄道にも目を向けていただければと思います。